

企業経営を楽しくするために、効果の出るやり方を作ってそれに集中しましょう。

%company%
%free1%
%free2%
%name_sama%

◆全4回シリーズ、AIリテラシー勉強会

AI活用のポイントを全4回で解説。
会社の成長に役立つ考え方と具体的な現場への導入事例を学び、
ビジネスを次のステージへ導くヒントをお届けします。

※リテラシー (literacy) とは、
英語で「読み書きの能力」や「識字能力」を意味する言葉ですが、
現在では「特定の分野に関する知識や能力、それを応用する能力」
という意味で使われるのが一般的です。

- 【済】◆第1回 “AI” を経営に役立てるには？
- 【済】◆第2回 ChatGPT, Copilot, Gemini の使い分け
- ◆第3回 使いこなすために必要なこと
- ◆第4回 具体的なAI現場活用事例

~~~~~  
第3回 使いこなすために必要なこと

- 【目次】
- はじめに
  - まずは特徴を知る
  - コツ(1)プロンプト(命令文)
  - コツ(2)アシスタントとして使う
  - コツ(3)深掘りする
  - コツ(4)チェック
  - まとめ

ChatGPT が 2022 年 11 月にリリースされたときの騒ぎは皆さん覚えていることと思いま  
す。

人類史上最速で広まったサービスと言われていましたが、皆さん現状使いこなされていますか？

自分なんかはかなり飽きてしまった口なのですが、なぜ飽きてしまったのか考えてみると

理由 1. ツールとして凄と思うけど、実務で使えるレベルのアウトプットではない。

理由 2. レベルを上げるためにプロンプトをちゃんと書い(周辺情報含めて書く)たり、必要情報を教え込み、育成するのがめんどくさい。

理由 3. レベルを上げるために段階的に聞くためのステップ、段階を知らない、めんどくさい。

理由 4. めんどくさい事をやってでも使いこなすモチベーションが湧かない。

理由 5. これからどういう社会になっていくのかははっきりわからないので、導入時期や採用ツールがわからない。

理由 6. 何をどこでどのように導入すればわからない。

といった所が個人的な見解ではないでしょうか。

理由 4~6 については第1,2回である程度述べさせていただきましたし次回でもその話に触れますので

今回は理由 1~3 について、解決を図っていきたいと思います。

## ■ まずは特徴を知る

自然言語処理 AI は入力された文章の、後に続く確率の高い文字を、膨大な Data から引っ張って来てとどんとつなげていく仕組みになっています。

したがって、

▶ ネット上のバイアスはそのままだ覚えてしまうので、みんなが間違っていることは、あたかも本当の事のように間違った答えを返してくる。

▶ 一番無難な言葉を返してくるので、物足りない。

ということになります。

なので、まずは自然言語処理 AI について理解を深めるところから始めます。

### 【AI が得意なこと】

- ・単純な学習や処理
- ・大量データの処理(認知量・学習量に限界がない)
- ・数値化されていることの推論
- ・画像、音声、映像の解析
- ・データの記憶
- ・作業の速さ

- ・24 時間の活動
- ・過去の事例から未来を予測すること

#### 【AI が苦手なこと】

- ・「あれ、これ、それ」の指示詞は苦手
- ・意味を理解して正確に検索することが苦手
- ・データにないことは分からない
- ・学習していないことやデータ不足な状態での判断・実行
- ・文脈などの意味を理解する
- ・合理的ではない判断をする
- ・「こんな感じ」「だいたい」など曖昧な指示で対応する
- ・「無」から「有」を生み出す創造力
- ・ひらめきや直感
- ・意思決定や判断

自然言語処理 AI はいわば、  
新卒で入ってきた、実務を全く知らない東大主席卒業のあなたの部下。  
みたいなものなのです。

#### ■コツ(1)プロンプト(命令文)

前章で言いましたように、  
AI は社会経験もなく、実務も知らない新入社員のようなものですから  
使いこなす上で、プロンプトの質は非常に重要です。

プロンプトが明確で具体的であればあるほど、  
AI のアウトプットの精度や関連性が高くなりますし、  
逆に、曖昧なプロンプトは不正確な回答や関連性の低い結果を生む可能性があります。

適切なプロンプトを設計することで、AI のパフォーマンスを最大限に引き出し、  
業務に最適な結果を得ることができるため、プロンプト設計は AI 活用の鍵となります。

ここではプロンプトのお作法として、  
note 株式会社の CXO である深津貴之氏が考案した  
深津式プロンプトについて述べてみたいと思います。

1. 役割を明確にする：  
AI に特定の役割を与えることで、より適切な回答を生成します。

例: 「あなたはデータサイエンティストです。以下の質問に対して、専門家としての視点から回答

してください。」

2.入力から出力を作ることを明確にする:  
どの入力がどの出力を導くかを明確にします。

例:「入力文:ビジネスにおける AI 活用の利点は? 出力文:利点を 3 つ挙げ、それぞれに簡単な説明を付ける」

3.何を出力するかを明確にする:  
出力内容を具体的に指示します。

例:「具体的な数値や統計を使用して、事例を挙げて説明してください。」

4.マークアップ言語を用いて本文以外を明確にする:  
特定の部分を強調するためにマークアップを使用します。

例:「# 命令書 “あなたはこの記事をおもしろくしてください”」

5.命令を箇条書きで明快にする:  
複雑な指示を誤解するリスクを減らします。

例:「以下の項目に従って答えてください: 主題の定義、関連する事例、将来的な展望」

6.条件を設定して出力結果をコントロールする:  
出力の条件を具体的に設定します。

例:「ポジティブなトーンで、読者を励ますような口調で回答してください。」

※深津式プロンプトの例

以下は、すぐに使える具体的な深津式プロンプトのテンプレート例です。

# 命令書:

あなたは、{特定の役割(例: SEO の専門家)}です。以下の制約条件と入力文をもとに、最高の結果を出力してください。

# 制約条件:

- 文字数は 200 文字以内
- 日本語で回答してください

- 箇条書きで教えてください

# 入力文:

「SEO における重要なポイントを 3 つ教えてください」

# 出力文:

1. キーワードリサーチ: 適切なキーワードを選定し、ターゲットオーディエンスにリーチする。
2. コンテンツの質: 高品質なコンテンツを提供し、ユーザーエンゲージメントを高める。
3. バックリンク: 信頼性のあるサイトからのリンクを獲得し、検索エンジンランキングを向上させる。

このテンプレートを利用すると、AI は具体的な役割を持ち、制約条件に沿った明確な回答を提供します。

深津式プロンプトは、コンテンツマーケティングやカスタマーサポート、製品開発など、様々な分野で応用可能です。

特に要約や音声や画像からの Data の取得など、アウトプットの仕様がはっきりしているときに有効です。

逆質問やベストプラクティスの出力、点数評価などを組み合わせることで、さらに効果的なプロンプトを作成することができます。

## ■コツ(2)アシスタントとして使う

1. チャット AI は「質問」するものではなく、「秘書」的に、クロスレビューなどに使う。

例)私はこういう事がしたいんですけども X の視点から気を付けることは何ですかね？  
X の視点:法務、経理、エンジニア、お母さん、子どもなどテーマに合わせて入れてください。

- 2.チャット AI には「命令」をする(プロンプト・エンジニアリング)

・役割を与えてノウハウを聞く。作業をしてもらう感じで使う。

例)あなたはプロの編集者です。あなたはプロのマーケッターです。

- 3.危険度チェックに使う

・上記 1.2.を組み合わせて危険度チェックに使う

例)あなたはプロの弁護士です。私はこういう事がしたいんですけども法務の視点から気を付けることは何ですかね？

#### 4.リサーチに使う

・AI の優れた点は、貯えた大量のテキストデータを迅速かつ正確に解析し、洞察を得ることができる点にあります。これにより、情報の収集、要約、分析が効率的に行え、リサーチや研究の質と速度が向上します。

「若い女性用化粧品の商品開発をしようと考えています。ターゲット層の特徴をリサーチしてください。特に、“悩み”について詳しく知りたいです。」

#### ■コツ(3)深掘りする

新入社員に依頼した仕事が上がってきた時、  
いろんな足りないところや弱いところに気付いたりすることがよくあると思います。  
そもそも業務上の「知見」の量が全く違うのですから、  
業界特有の慣習とか深い洞察や新たな視点とか、最初から持てるわけがないのですから。

そんな場合は、突っ込んでみたり、アドバイスしたり、追加の指示を与えたりしますよね  
AI も同じです。どんどんつつこんであげましょう。  
そうすることによってアウトプットの質はどんどん高くなり  
学習した AI は次回からの回答の質が上がっていきます。

またコツ(1)でプロンプトに重要性を述べましたが  
面倒なので簡単にやりたいときや、  
まだゴールが明確でなく探り探りアバウトに入りたい時などにも  
この「深掘り」のテクニックが活きます。

ぜひ手順や気を付けるポイントなど、業務に精通し、深い「知見」を持っている方はこの方法をご活用ください。

#### ■コツ(4)チェック

自然言語 AI のアウトプットをチェックすることは非常に重要です。  
その理由として以下のものがあげられます。

1. 正確性の確保: AI が生成する情報が正確であることを確認するためです。  
誤った情報が広まると、信頼性が損なわれる可能性があります。
2. 偏りの排除: AI は学習データに基づいてアウトプットを生成するため、データに偏りがあると結果にも偏りが生じます。

これを防ぐためにチェックが必要です。

3. 倫理的配慮: AI が生成する内容が倫理的に問題ないかを確認することも重要です。差別的な表現や不適切な内容が含まれていないかをチェックします。

これらのチェックを行うことで、信頼性の高い、偏りのない、倫理的に適切なアウトプットを確保することができます。

#### ■まとめ

ChatGPT などの自然言語 AI を効果的に活用するためには、AI の特徴を理解し、適切なプロンプトの設計やアウトプットの精査が必要です。プロンプトの具体性や明確さがアウトプットの質を大きく左右し、AI を秘書的に活用することで、業務効率を大幅に向上させることが可能です。

また、AI から得た情報を深掘りし、繰り返し質問を重ねることで、質の高い成果を得られると同時に、自分の業務知識や視点を反映した AI の使い方ができます。

最終的に、アウトプットのチェックを徹底し、信頼性と倫理性を確保することが重要です。

◆AI に関するご相談は、

<https://www.facebook.com/MRCkazu>

まで

いかがでしたでしょうか？楽しみいただけましたか？

次回は

ChatGPT や生成 AI、日々あふれる AI に関する情報  
我々は経営者として AI とどのように向き合い  
どこでどのように活用していけばいいのか？

◆全 4 回シリーズ、AI リテラシー勉強会

AI 活用のポイントを全 4 回で解説。  
会社の成長に役立つ考え方と具体的な現場への導入事例を学び、

ビジネスを次のステージへ導くヒントをお届けします。

#### 第 4 回 具体的なAI現場活用事例

をお送りいたします。

お楽しみに！

編集長:岩下 一智 MRC

~~~~~  
■参考図書■Amazon 電子書籍

渋沢栄一翁の 合本主義「義利合一」の時代がきている

<https://www.amazon.co.jp/dp/BOCB9M6D2T>

*著者：(株)I&C・HosBiz センター

Captain 平本 靖夫

~~~~~  
本記事に対するご質問やご感想は下記アドレスまでお願いいたします。

[heart\\_gaia\\_gi@hosbiz.net](mailto:heart_gaia_gi@hosbiz.net)

~~~~~  
バックナンバーは下記の URL を確認してください。

https://rinenkeieishi.net/mail_magazine/hayabusa.php

~~~~~ 次回予告 ~~~~~

皆様のコメントを励みにして、航海を続けていきますので、重ねてご支援ご鞭撻を  
よろしく願います。

次回、第 669 号は……

◆全 4 回シリーズ、AI リテラシー勉強会

AI 活用のポイントを全 4 回で解説。

会社の成長に役立つ考え方と具体的な現場への導入事例を学び、

ビジネスを次のステージへ導くヒントをお届けします。

#### 第 4 回 具体的なAI現場活用事例

を 24・10・4(金)にお届けする予定ですので、



楽しみにしててくださいね。

※なお内容は予告なく変更する場合がありますので、ご承知ください。

■LittleBiz 企業・中小企業で働く人々や、経営者が幸せでなければ、  
私たちは「世のため・人のため」になれない。

とクルー一同尽力しております。

■平本靖夫、50年の経営支援家人生の集大成 第1弾！

『合本主義「義利合一」の時代がきている』

Amazon kindle にて発売中！！ 2000円

<https://www.amazon.co.jp/dp/BOCB9M6D2T>

最後までお読みいただき感謝いたします。本当にありがとうございます。

では、また次号で元気にお会いしましょう！

---

◆発信日・・・毎週・金曜日

◆発行責任者・・・Captain 平本靖夫

◆編集長・・・岩下一智・(株)I&C・HosBiz センター 執行役員  
マーケット・クリエイター(MRC)・・・CST 開発推進責任者

プロフィール

<https://rinenkeieishi.net/corporate/index.html>

Facebook

<https://www.facebook.com/yasuo.hiramoto>

\*お問い合わせは「<https://rinenkeieishi.net/contact/form.php>」まで

ご愛読ありがとうございます

著者：(株)I&C・HosBiz センター

Captain 平本靖夫

プロフィールは

<http://rinenkeieishi.net/corporate/index.html>

◆はやぶさ・に関するお問い合わせ・質問は

メールアドレス：kazu\_zohan@hosbiz.net

発行責任者：Captain 平本靖夫、

編集長：岩下一智 MRC